

早期教育の新常識

先輩ママの悲喜こもごも
おすすめ書籍「この一冊」



流されない育児のためのワンテーマ情報誌

コノコトでは時代は変わっても決して変わることはない、子育てに必要なことを伝えていきます。



認定NPO法人 子どもと文化のひろば
ふれいおん・とかち
〒080-2470 帯広市西20条南5丁目18-2
Tel & Fax 0155-36-0560
http://www.play-on-tokachi.net
e-mail: info@play-on-tokachi.net
コノコト Vol.4 2019.4.26



まいにち お悩み があさん

by meg




周りのお友達が習い事を始めているのにうちの子は遊んでばかり。何かさせないと、と不安になっていませんか。

「遊んでばかりで大丈夫？」



先輩ママの悲喜こもごも

けっころ 頑張った 子どものために思う親心はみな同じ！

良かったこと	内容	残念だったこと
本人は楽しそうに通っていた。中学に入ってから英語の成績には困らなかった。	2才~12才 英語教室  Aさん	英会話ができるというほどではなく、「英語をペラペラ話せるようになってほしい」という親の願いは叶わなかった。お金をかけた割には…(??)
高校での人間関係のトラブルを乗り越え、自立心・生活力においては先生からも高評価！あそびで培われたものと確信している。	小6まで 遊び重視  Bさん	習い事をせずに「遊び優先」を貫いた小学時代を送るが、中学から勉強が難しくなりその方針に迷いが生じ大いに焦る！！
ピアニストになってほしくて小さいころからピアノ漬けの毎日。努力の甲斐あってみるみる上達し、全国コンクールで入賞も！	2才~12才 ピアノ教室  Cさん	6年生の時突然、大の字になって「ピアノをやめる！」と言い出した。反対した母との関係にも亀裂が…。結局ピアノを辞めてしまった。

早期教育の新常識

やっぱり気になる「早期教育」

インターネットや雑誌の広告記事に踊る「早期教育、幼児教育」の文字。さらに、周りのママたちから「習い事や幼児向けの学習教材を始めた」と聞いた時に、うちの子にも何かをさせないと将来落ちこぼれてしまうのでは…と不安になったことはありませんか？

脳が爆発的なスピードで成長する乳幼児期に、どんな環境を与えるかはとても重要なこと。この選択に我が子の一生がかかっていると言っても言い過ぎではありません。

本当に価値のある早期教育って？

ではどんな早期教育が子どもを幸福な人生に導いてくれるのでしょうか。脳を刺激する音楽？ 耳の良いうちの英語？ 運動神経を鍛えるスポーツ？

いいえ、答えはズバリ「あそび」です。あそびが早期教育だなんてピンとこないかもしれませんが、実は最新の幼児教育で専門家が幼児期に最もさせるべき体験として挙げているのが、あそびなのです。

あそびといっても、大人が勧めて強制的にやらせることはいくら楽しそうにみえたとしても「あそび」とは言えません。あそびとは、子どもが自主的にやりたいことを見つけて自分のペースで楽しむこと、それに尽きます。

例えば0〜3歳くらいの幼児にとっては、



道端の小さな生きものをただ見ていることや、靴を何度も履いたり脱いだりすることなども、立派なあそびです。

あそびで育つ「非認知能力」

数が分かる、字が読めるなどIQで測ることができる力のことを「認知能力」と言うのに対して、目標に向かって頑張る力、人とうまく関わる力、感情のコントロール力など、テストでは数値化できない内面の力を「非認知能力」と言います。そして、この力を育ててくれるのがあそびなのです。IQなどの認知能力の向上を目的とした従来の早期教育は、一時的に子どもの知性を飛躍させるため効果があると誤解されやすいのですが、学年があがるにつれて周りの子との差は無くなつていきます。

むしろ、そのような訓練(習い事など)を受けずに自由に遊んでいた子どもたちのほうが将来的には安定した収入が得られ、離婚率、犯罪率なども低いという調査結果が出ています(「ペリー就学前プロジェクト」)。

大人になってから社会の中で幸福に生きていくためには、学力よりも自己肯定感、やり遂げる力、コミュニケーション力、リーダーシップといった「非認知能力」の方がよほど重要です。

もちろん将来的には学力も必要になりますが、それらは非認知能力という人間性の土台の上で発揮される力。幼児期にあそびの時間を奪ってまで習わせる必要は全くありません。

せめて、非認知能力が最も伸びる9歳くらいまでは、あそびの時間を優先させたいものです。

「うちの子遊んでばかりで大丈夫？」

大丈夫です。あそびこそ、私たち親が贈ることができる最良で最強の早期教育、だったのです。

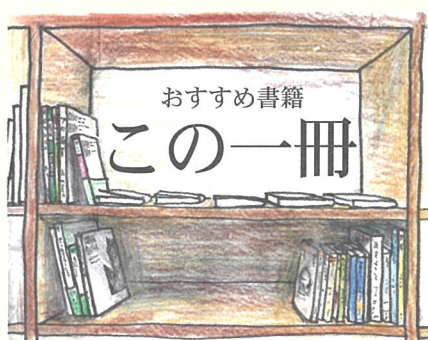
不安を感じているお母さん、お父さん。自信を持って、毎日思い切り遊ばせてあげてくださいね。



プレイセンター ゴジツツ

ニュージーランド発祥の、乳幼児と親のためのあそび場。子どもの自由なあそびを見守り、一緒に遊び、学び合う親たちの自主運営によるサークルです。

- 毎週水・金曜日 10:00~13:00
- 会場：ぶれいおん・とかち
- 会費：1,200円/月
- 登録：大人1人+就学前のお子さん何人でも



早期教育が気になったら是非読んで欲しいおすすめ書籍。コノコト編集委員が実際に読んで参考にした4冊です。



7歳までのお守りBOOK

西野博之 著
1,200円(税抜)/ジャパンマシニスト社

「生まれてきてくれてありがとう！」を取り戻そう。人と比べないこと、焦らないこと、子どもが自分で決めること。子育ての大変なエッセンスをやさしく教えてくれます。ゆるるパパ・ゆるるママで大丈夫。開くたびに癒されるお守りみたいな本。



よみがえる子どもの輝く笑顔

天野秀昭 著
1,300円(税抜)/すばる舎

日本のプレーパーク創始者による、魂に響く子育て論。子どもにあそびの見立て方、真に与えるべき環境だけでなく、社会の構造や歴史と子どもたちの諸問題の因果までもがはつきりと理解でき、迷いが消えること請け合いの一冊です。



「非認知能力」の育て方

ポーク重子 著
1,400円(税抜)/小学館

学力偏重教育から「非認知能力」教育へ大きくシフトしたアメリカで子育てした著者が、子どものためにお母さんが家庭でできる実践的な方法を紹介します。これからの時代を生きてすべての親子を幸せにしてくれます。



遊びが学びに欠かせないわけ

ピーター・グレイ 著
吉田新一郎 訳
2,400円(税抜)/築地書館

人類の歴史を振り返り「あそびの力」を検証する壮大な一冊。人類にとって遊ぶことがいかに有意義なことか理論づけて書かれています。「我が子をもっと遊ばせなくっちゃ！」と思うこと間違いなしです。